

八中1年人権だより

徳島市 八万中学校
1年生 第7号
2020年8月17日
編集・文責 吉成正士

八中1年人権作文発表会を終えて第4弾

みなさんの感想をもとにした人権だよりも、第4弾となってしまいました。これでおしまいです！

今日の人権作文発表会を見て、クラスの代表として選ばれた人たちの意見はやっぱりすごいなと思いました。

1年4組の代表のYさんの意見は1年生の時に自分のことを救ってくれた人にお礼を言いたいなどその経験を得て自分が変わったのがすごいと思いました。

あと「人種差別」のことについて書いている人がいたけど、ネットでの悪口やそのことに便乗する人が多いと思うけど、ネットでの意見を書くのはすごく簡単だけど、今日発表した人たちがみたいに人がいっぱいいる中での発表はすごく難しいと思うので、すごい勇氣があるなと思いました。

他は「ジェンダー平等が当たり前の世界に」という発表で、ゲイやレズビアンや他の同性愛のことがありました。僕は別に好きになるのも人の勝手だし、産まれながらそのような体になったのかもしれないと思いました。

(中略)6人の意見を聞いて、人権の大切さを改めて知れました。
TJ

本人にはどうしようもないことをとやかく言って茶化し、笑いにするようなことがあります。その人の生まれや、家族、体型や姿、名前などなど。太っているからととやかく言い、ガリガリだからととやかく言い、毛深いからととやかく言い、アザがあるからととやかく言い、肌が黒いからととやかく言い、髪型がどうだからととやかく言い、背が小さいからととやかく言い、背が高いからととやかく言い、親や家族がどうだからととやかく言い、名前をもじってとやかく言い、生まれた場所をとやかく言い。そんな、本人にとってどうしようもないことをとやかく言う、下らない人がいたりします。しかも、ネット上で自分は明かさず、匿名で自分勝手なことばかりを書き込む人もいます。物事の分別がつかない子どもの頃ならまだしも、大人になってもとやかく言ったり、隠れてこそこそ書き込んだりするのは、卑怯です。卑怯者のすることです。みなさんはそんな大人にはならないでください。

もし、とやかく言われたとしても、言われなくても努力する必要なんてありません。言う方がおかしいのですから。もしそんなことがあったとしても、普通に、堂々としていればいいのです。あなたの味方はいますから。

この八中1年人権作文発表会2020を終えて、代表として発表してくれた6人の作文を聞いて、どの作文も心

に残りました。

Hさんの「いじめのない世界を目指して」では、自分の体験したことを生かして書いていて、Sさんはコロナウィルスのことについて、Fさんは人種差別について、Yさんは友達のおかげで自分が今こうしていられることについて、Tさんはいろんな差別について話してくれました。この6人の人たちの体験のように、体験することで、「自分も周りの人にあんなことしてないかな？」「差別はだめだ」と思えます。決して差別はしてはいけないけど、その体験をした人たちはきっと、別の人が差別されている人たちを見て止めに人になるんじゃないかと思います。私も少し「いじめ」の時期があつてつらいこととかたくさんあつたけど、それを乗り越えた後は、いじめをされている人、している人を見ると、注意したり、止めに人にならなくていい。

この学習でみんなの意見を聞いて、より「いじめ」や「差別」は駄目なことなんだと改めて分かりました。

IH

自分をふり返ることができることを、「知性」といいます。単に多くの知識を持っているだけでは「知性」とは言わないということです。人の意見を聞いて、自分をふり返ることができたなら、それが「知性」なのです。人が大切にしなければならぬのは、その「知性」です。

いじめも差別もあつてはなりませんし、許してはいけません。けど、その経験をふり返り、人の意見と重ねて、自分のあるべき姿へと高めることができたなら、一段階成長できたと言えるのかもしれない。ただ、みんながみんな、同じように成長できるかというと、そうは限りません。たまたま成長できる人もいれば、そうはならない人もいます。人にはそれぞれの「ものさし」があるのです。

一つの作文に対して同じような意見があるのはあつたけど、それぞれ向いている方向は同じで、意見が違うなと思いました。自分も発表し終わった時に感想を言ってもらえて嬉しかったです。発表する前は、した後の不安があつて、もしこれを打ち明けたら何を言われるかわからないから、正直悩んでいました。でも発表して結果的に良かったです。終わった後も、いろんな子から「作文良かったよ」とか言ってくれて、不安が吹き飛びました。こういうときは、他の代表者の作文にもあつたけど、誰かの一言が人の不安とか悩みとかをなくせるすごい力だと改めて身にしみて感じました。

Hさんの作文は、すごい心に特に残りました。正義感をもって止めに人を入れて、差別やいじめなど周りがされているのを見て行動ができるのがすごいなと思いました。勇氣ある行動はすごいいいと思うけど、なかなか行動に移せるのは少ないと思います。もし～されたら、とか

思ってしまう、たいていの方は行動に移せないと私は思うので、正義感で止めてくれる人に誰も何も傷つけるようなことはしないのが普通だと思うから、そういう世界になればなと思いました。

(中略)最終的には、自分が本当に好きな人を愛せて、隠さなくてもいいようになるのが理想だと思います。

YD

理想を追い続けて、人は歴史を刻んできました。何十年も、何百年も、何千年も。そこには、苦しい思いをした人、悔しい思いをした人、志半ばでその人生を終えた人、様々です。それでも人は、歩みを止めませんでした。そして、今があります。これからをつくるのは、みなさんの世代です。みなさんの世代も歩みを止めなければ、さらに次の世界が開けます。今をつくってくれた人たちから託されたバトンを次に渡せるかどうかは、みなさんにかかっています。行動することです。

でも、いいことは言っても、いざとなると行動に移せない人がいます。残念なことです。その行動しない姿は、逃げているようにさえ感じられます。口ではいいことを言ってるのに、実際に行動には移せない…。

その一方で、まだ熟してないのかな、と思ったりもします。まだ行動に移せるまでのエネルギーが貯まっていない。行動に移せるまで、機が熟していない、ということです。だから、その人を信じて、熟すまで待つことも必要なことだったりします。じゃあ、いつまで待てばいいの？ 分かりません。一生行動に移せないままかもしれません。それはその人にしか分かりません。じれったくて、見ていて感情的になってしまうことも、私自身ありました。それでもその人を信じられるかどうか。それが、自分に試されているのだと思います。今の私も、まさにそうです。

勇気を出して発表したことも、行動の一つ。発表後に感想を言ってくれたことも、行動の一つ。声をかけてくれたことも、行動の一つ。一生懸命に聴こうとまなざしを送ったことも、行動の一つ。そのどれが欠けても、あの時間はありませんでした。ということは、行動のスタイルは違って、みんながそれぞれなりの行動をしていたということなのかもしれません。

「意見は違って、それぞれ同じ方向を向いていた」

かつてこれと同じような感想を述べた子がいて、感銘を受けたことがありました。

「答えのない問いのようなものに、みんなが向き合っているような感覚」

人権学習の本質を突いている言葉です。

発表する人、聴く人、どちらが欠けても、あの時間は成立しなかったのです。みんなが必要な存在だったということです。それは、これからも。

6人の人権作文を聴いていて、全員の発表がすべて自分の体験だったことに驚きました。

H君の作文では身近な友達についてでした。H君の作文を聴いていて「いじめられている子を助けたい」という気持ちが伝わりました。

F君が言っていたことで「差別はなくなるらない」と言っ

ていました。悔しいですが共感しました。私は「差別なんてなくなってしまえばいいのに」と思っています。黄色人種が差別されていることを知ったとき苦しかったです。F君の作文を聴いていて、「少しでも差別が少なくなれば」と思いました。

Eさんの作文では考えさせられました。題名が誰よりも重かったからです。私は、「女の子らしく男の子らしくなんて考えなくてもいいよ」と言いました。なぜか顔を見るのが怖くて紙ばかり見ていました。

自分の意見、感想を伝えることはとても怖くて、発表したとき泣きそうになったけど、私の思ったことを相手に直接伝えることができて良かったです。自分の体験したことを思い出しながら聴いていると、涙が溢れそうになりました。

UM

もし自分に魔法があったなら、今すぐ、この瞬間からいじめや差別をなくしたい。そんな思いがずっと、強くあります。でもそんな魔法なんてありません。それでもそんなことを思ってしまう。

「差別はなくなるない」これは、今、この瞬間も切実な思いをしている当事者にすれば、本当に残酷な言葉です。私も苦しいし、胸に痛みを覚えます。今すぐにはなくせませんから確かに共感もするし、そうかもしれない。でも、100年後、200年後、1000年後はどうでしょう。いじめや差別を今すぐなくすことは確かにできないかもしれませんが。でも歩みは小さいですが、その小さい歩みがなければ、100年後も200年後もないのではないのでしょうか。だから、今すぐになくしたいですが、今すぐになくせないからといって諦めるのではなく、自分が次の世代の礎になる覚悟で、一步を踏み出そうと思います。

これまで、「まなざしを送る」ことの大切さについて何度か話してきました。でも、敢えてまなざしを送らず、耳に全神経を集中させて、「耳で見る」とも言えるような子がいることを知っています。それはそれで「よし」です。いろんなタイプの子がいるわけですから。事実、目の不自由な人は、見ようにも見えません。でも、見える以上に感じ、見えていたりします。逆に私たちは、見えているのに十分に見えていないこともあります。

サン＝テグジュペリという作家が書いた作品、「星の王子さま」のなかで、主人公はこんなことを言っています。

「心で見なくちゃ、ものごとはよく見えないってことさ。

かんじんなことは、目に見えないんだよ」

そしてまた、サンは、こんなことも言っています。

「愛はお互いを見つめ合うことではなく、ともに同じ方向を見つめることである」

人権という言葉なんてどこにもないのに、すごく人権に関わりがあるような気がします。

最後まで読んでくれてありがとう。またね。

